

[07\_10] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :  
7(10)

<https://doi.org/10.15017/18264>

---

出版情報 : 図書館情報. 7 (10), pp.53-60, 1971-10-15. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :

## KWIC 書誌利用上の問題点

長尾 公司

時代の要求ともいうべき情報処理の機械化は着実にその歩をすすめ、機械検索システム実用化への動きと相まって、われわれのレファレンス・デスクの周辺にも、その全体、あるいは、一部の構成に電子計算機による情報処理方式が関与している二次刊行物（特に、索引）が、増加の傾向にある。大量情報の処理、作成時間の短縮、労力の軽減、経済性などの理由から、印刷書誌作成への電子計算機の適用は、今後も発展するであろうが、それぞれに特徴的な性格を持つ、これらの新しいレファレンス・ツールは、研究者や図書館員にとり、在来のツールにない馴染みにくさがあることは否めない。今回は、そのなかから KWIC 書誌をとり上げ、利用上の問題点を概説したい。

情報検索に主題索引法を適用する場合、(1)情報をいくつかの主題に分析して、これを結びつけて索引する、いわゆる件名索引法 (Subject Indexing) と、(2)情報中の主題をあらわす重要語 (Significant Word) を、見出し語 (Keyword) として索引する、いわゆるキーワード索引法 (Keyword Indexing) とが考えられる。

キーワード索引には Chemical Abstracts の Keyword Index のように、単純な用語排列をしたものと Chemical Titles のように、見出し語の前後の文章を明らかにしたものが普及している。特に後者は、非常に特異な構成を持ち、それだけでも解説に値するのであるが、紙面の関係から用語の問題を中心に述べようと思う。

IBM の Luhu らは、a. 論文の著者は、一つの用語がいくつかの意味をもっている、一つの論文の中では単一の意味において用い、b. その論文の中で著者が主張しようとする内容に関係のある重要語は、他の用語に較べて生起頻度が高く、c. その論文の中で著者が重点をおいて主張するセンテンスは、その重要語を他のセンテンスに較べて密度も多く含んでいるという、確率論的な着眼から、電子計算機に、論文内容（論文表題）を入力し、重要センテンス（重要語）を出力させ得るようなプログラムを与えることを検討し、索引作成に実用化した最初が、1960年創刊の Chemical Titles であり、Luhu らが KWIC 索引 (Keyword in Context Index) と名づけたこの自動索引方式は、(1)機械が作る。(2)最短の時間と、最小の労力での索引作成が可能である。したがって、(3)速報性をたかめることができる。などの利点から、Biological Abstracts が、物件索引 (BASIC) に採用し、Bioresearch Index や、Chemical-Biochemical Activities などの KWIC 速報誌が次々に創刊された。

Chemical Titles を代表例として、索引の組立てを見ると、表題中の単語を見出し語として、23字+2字（スペース）目に、Alphabetical に排列して行き、索引に現われる表題の字数を60字に制限する非常に特異な形態のいわば、最も電子計算機の所産らしい索引であることが判る。表題は、選び出された重要語の数だけ、反復して索引中に現われ、識別コードによって、Bibliography にアクセスするが、表題が60字を超える場合には、その全体を索引中では知り得ない。キーワードの選ばれ方と、表題の文章の処理については、附表を参照していただきたい。

キーワードを選び出す方法として、先ず重要語のリストを作ることが考えられるが、これには、(1)無限ともいうべき用語の整理と、リストの更新の問題。(2)同義語、異義同語、関連語の統一的処理の問題。(3)リストの不備からくる検索もれのおそれがある。反対に、非重要語（一般的用語）を決めて、Stop words のリストを作り、それ以外の用語をすべて重要語と見なす方法も考えられるが、これには、(1)言外の意味の無視の問題。(2)綴り字、語尾変化の問題。(3)複合単語の処理の問題。(4)用語選択の粗さからくるノイズ発生のおそれがある。しかし、電子計算機の記憶容量という考慮から、後者の Stop words のリストに分があり、Chemical Titles の場合、List of Words Prevented from Indexing として公表されており、いく度か改訂されている。

KWIC 索引が急速に普及を見た原因となった利点について考えてみると、(1)論文内容の分析が、件名索引法と違って不要で、しかも自然語が使えるので、主題専門家を必要としない。(2)機械が作成する。といった作成上の速度と経済性が一番大きく、Biological Abstracts が、後にのべるような問題点があるにもかかわらず、BASIC を登場させ、その累積版をも出したのは、全くそうした理由と思われる。一方、検索上の利点としては、(1) Alphabetical に排列されたキーワードに目を走らせることによって、識別コード、Bibliography を通じて、論文にアクセスし得る。(2) 同じキーワードを持った論文表題が集合している。(3)質問者と検索者とが兼ねられ、自然語を使うことができる。(4)内容の速報性が高い。などで考えられる。

問題点としては、(1)論文表題から隠された主題への手掛りが得られない。(例2)・(2)同義語、異義同語、複合単語の扱い方に問題が多い。(例3)・(3)相互参照がない。(4)綴り字、語尾変化、略語、ギリシヤ文字、記号、数字の扱いをきめた用語の使用規定が、往々にして、重要なものを隠してしまうことがある。(例3-3) (5)適当な、Subheading の下にグルーピングし得ない。(6)表題が中断されることが多い。(例2) (7)同一キーワードの下に同一論文が重出することがある。(例3-3) (8)論文に直接アクセスできない。(9)必ずしも見易い体裁とはいえない。(10)同一キーワードでも、それぞれに論文中での重要度が違うので、検索目的に合致するものが極めて少ないことがある。(11)索引深度の点から恒久的索引としては難点がある。などをあげることができるだろうが、Current awareness のためのツール作成手段としては、優れたものといってよい。

もっとも、問題点の改善については、いろいろな努力が払われ、Biological Abstracts は、Cross Index を考え出し、BASIC での検索中に一つでも目的に合致した論文を見出した場合、あとの論文の検索時間を短縮したり、他の分野への関連づけをすることを狙っており、補助的なツールとして、Subject Model や、Subjects Classification Outline なども配付しているが、非常に有用とは言えないようである。また、Chemical Abstracts Service は、Chemical Abstracts の Keyword Index と、Chemical Titles の他、CAS の SDI サービスに現われたキーワードを集めて、Chemical Abstracts Service Search Guide, 1967 を出し、用語概念の上下関係、関連語、同義語を明らかにし、KWIC に相互参照のない欠点を補おうとしているのは、注目に値する。こうした Thesaurus は、非常に広い用途を持ち得るものと考えられ、現に図書館の分類の際のツールにもなっていることをつけ加えておきたい。

今回述べたことは、KWIC 書誌を例に電子計算機作成二次刊行物のほんの一斑をとらえたにすぎない。実際の利用にあたって、そのツールの Preface Introduction を熟読して、経験例を増し、いわゆる応用動作を会得することが肝要である。

## 附 表

## KWIC Index (Chemical Titles)

## 例 1.

Abe, K. et al.: Estimation of kinin in peripheral blood in man,  
Tohoku J. Exp. Med., 89, 103-12, 1966.

ESTIMATION OF KININ IN PERIPHERAL BLOOD IN MAN.=  
OF KININ IN PERIPHERAL BLOOD IN MAN.= ESTIMATION TJEMAO-0089-0103  
ESTIMATION OF KININ IN PERIPHERAL BLOOD IN MAN.= TJEMAO-0089-0103  
IN PERIPHERAL BLOOD IN MAN.= ESTIMATION OF KININ TJEMAO-0089-0103  
ESTIMATION OF KININ IN PERIPHERAL BLOOD IN MAN.= TJEMAO-0089-0103

## 例 2.

Sakamoto, S.: Histochemical studies on leukocyte alkaline phosphatase activity with special reference to various types of hemolytic disorders.  
Tohoku J. Exp. Med., 89, 387-99, 1966.

HISTOCHEMICAL STUDIES ON LEUKOCYTE ALKALINE PHOSPHATASE ACTIVITY WITH SPECIAL REFERENCE TO VARIOUS TYPES OF HEMOLYTIC DISORDERS.=  
ALKALINE PHOSPHATASE ACTIVITY WITH SPECIAL REFERENCE TO TJEMAO-0089-0387  
STUDIES ON LEUKOCYTE ALKALINE PHOSPHATASE ACTIVITY WITH TJEMAO-0089-0387  
IOUS TYPES OF HEMOLYTIC DISORDERS.= +REFERENCE TO VAR TJEMAO-0089-0387  
NCE TO VARIOUS TYPES OF HEMOLYTIC DISORDERS.— +REFERE TJEMAO-0089-0387  
ALKALINE PHOSPHATASE + HISTOCHEMICAL STUDIES ON LEUKOCYTE TJEMAO-0089-0387  
STUDIES ON LEUKOCYTE ALKALINE PHOSPHATASE TJEMAO-0089-0387  
ON LEUKOCYTE ALKALINE PHOSPHATASE ACTIVITY WITH SPECIAL TJEMAO-0089-0387

23	2	36	2
Keyword		Keyword	Identification Code

## 例 3.

- 1 ANTI-COAGULANT EFFECT OF OMEGA-HEPARIN (WHALE HEPARIN).=
- 2 GONADO TROPINS AND TESTICULAR 17-KETO STEROID SECRETION.=
- 3 QUANTITATIVE DETERMINATION OF D-GLUCARIC ACID IN BILE IN RELATION TO INHIBITORY EFFECT OF BILE ON BACTERIAL B-GLUCURONIDASE.=
- 4 IDIOPATHIC HYPERCHOLESTEROLEMIA. DEMONSTRATION OF AN IMPAIRED FEEDBACK CONTROL OF CHOLESTEROL SYNTHESIS IN VIVO.=
- 5 DEACTIVATION OF VASOPRESSIN BY HEART MUSCLE.=
- 6 FOLIC ACID CLEARANCE AND ITS RELATION TO INITIAL LEVELS OF SERUM FOLIC ACID ACTIVITY IN CHILDREN.=
- 7 ALTERATIONS IN TOTAL URINARY 17-HYDROXY CORTICOID STEROIDS AND SERUM ANTI-DIURETIC SUBSTANCE FOLLOWING SURGICAL OPERATIONS ON THE BRAIN.=
- 8 CHANGES AFTER SPLENECTOMY OF PLASMA PROTEIN PATTERN IN BANTI'S SYNDROME.=
- 9 A RAPID INCREASE IN FORM IMINO TRANSFERASE ACTIVITY OF LIVER DURING INFANCY.=
- 10 COMPLEMENT FIXING ANTIBODIES PRODUCED IN GUINEA PIG IMMUNIZED WITH PURIFIED N AND H ANTIGEN OF POLIO VIRUS.=
- 11 GLYCO LIPIDS ISOLATED FROM THE SPLEEN OF GAUCHER'S DISEASES.=
- 12 TETRAHYDRO FOLATE DEPENDENT ENZYME ACTIVITIES OF ERYTHROCYTES IN FORM IMINO TRANSFERASE DEFICIENCY SYNDROME.=
- 13 INFRARED ABSORPTION SPECTRA OF BILIRUBIN AND CALCIUM BILIRUBINATE.=
- 14 STUDY ON THE DISTRIBUTION OF IODINE-131 LABELED TOXO HORMONE.=
- 15 APPLICATION OF 30 PCT. CORRECTION METHODE TO IODINE-131-TRI IODO THYRONINE RESIN SPONGE UPTAKE TEST (TRIOSORB TEST).=

\* 表中、アンダーラインの箇所は、キーワードを示す。

## 〈 参 考 資 料 〉

- 1) Chemical Titles.
- 2) Biological Abstracts, incl. BASIC.
- 3) Fischer, M.: The KWIC Index Concept; a retrospective view. Amer. Doc., 17, 57-70, 1966.
- 4) 長尾公司: 電子計算機作成書誌利用上の問題点. 医学図書館 15, 1968, P. 439-444.
- 5) 長尾公司: レファレンス・サービスと2次刊行物利用法— KWIC Index 概説—学術月報 20(12), 1968, P. 43-47.

(ながお・こうじ: 中央図書館整理課長)

### 新図書館検討委員会

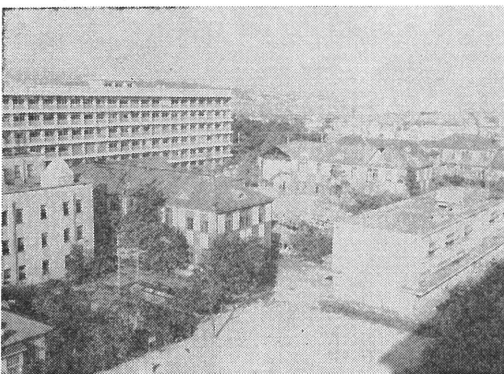
標記の会議は、10月19日(火)13時30分より14時まで事務局貴賓室で開かれ、委員長(池田学長)の挨拶ののち、高木附属図書館長および加門施設部長より新図書館建設計画の進捗状況について説明があり、質疑応答ののち、新図書館平面計画の基本構想および現中央図書館の保存図書館転用計画(図書館情報 Vol. 7, No. 8~9 参照)について異議なく承認された。当日出席の委員は次のとおりであった。

池田学長、内藤文学部長、岩井教育学部長、水波法学部長、都留経済学部長、松浦理学部長、武谷医学部長、園田教授(工学部長代理)、井上農学部長、緒方教養部長、岡部応研所長、高木附属図書館長

### 新図書館平面計画の修正について

前号(Vol. 7, No. 8~9)で新図書館建設計画の近況をお伝えすることができたが、その中で、技術上の懸案とされていた防煙隔壁の問題(46頁参照)は、その後、施設部が関係方面と調整した結果、大学の施設であるから、一般の図書館の基準を適用しなくてもよいということになり、2階の研究者閲覧室とレファレンス・ルームとの間の隔壁と3階の開架・指定書両閲覧室の間の防火シャッター(49頁参照)を設ける必要がなくなった。この変更は、工費の節約はもちろんであるが、利用空間の互換性という点から大きなプラスである。

### 建築予定地の整地すすむ



撮影日(昭和46. 9. 2)



撮影日(昭和46. 10. 29)

新図書館の敷地に予定されている、農学部旧館の取りこわし作業は順調にすすみ、廃材の搬出も終って、あとは新図書館の基礎工事の槌音をまつのみとなった。

## 大学図書館職員長期研修会に参加して

平川友視

〈とき・昭和46年7月19日(月)～8月14日(土) 文部省・図書館短期大学共催〉

「大学における研究・教育活動の急速な進展に伴い、大学図書館が利用者に必要とされる図書館資料及び学術情報を、迅速かつ的確に提供することの重要性がますます高まっている。このためには、利用者の高度な要求に即応した図書館資料及び情報提供体制を整備する必要があり、その一環として図書館業務の合理化、標準化および機械化による能率向上と、積極的に行なう書誌的情報の提供等のサービスの質的改善を図らねばならない。これらは従来からの図書館学の知識と技術では処理し得ない面も少なくないので、これらに必要な最新の知識および技術を相当の経験を有する図書館員に習得させ、その資質の向上を図り、大学図書館の近代化を促進する」という文部省の趣旨にそって実施されているこの研修は、今年で数えて第3回目となる。参加者は国立大学職員のうちから図書館の掛長級的女子2名を含む30～40歳までの32名であったが、本学からは人文科学分野に中央図書館西嶋目録掛長、生物科学分野に私の計2名が参加した。4週間にわたる研修科目は①図書館業務の合理化・標準化および機械化②二次情報活動および参考図書のご構成と利用③大学図書館管理運営論に集約することができる。そのプログラムについてはすでに図書館情報 Vol. 7, No. 7 に掲載されたとおりである。当初のプログラムでは演習・実習時間も、かなり予定されてあったが、やはり講義中心の研修会であったように感じられた。実質4週間にわたって近代化のために必要な知識および技術の注入を受けたわけであるが、それらを完全に咀嚼しえたとはいえないまでも、職場において今後の業務のあり方を考えるための基礎的なものを多数身につけることができたと思う。以下今回の研修の一つの大テーマであった機械化の問題を中心に報告したい。

現代はコンピューターの出現によって、第5次情報革命を迎えたといわれている。特に自然科学分野を中心に発表される情報の量は、ぼう大で、ますます増加の傾向を示している。そして学問分野の相互関連、専門分野の細分化、境界領域の拡大などで研究者が必要な情報を求めることがますます困難になってきた。こうした情勢の中で情報管理技術の革新が叫ばれコンピューター導入の必要性がクローズアップされてきた。すでに日本を含めて世界各国も国家的な体制づくりを積極的に検討している。また、既存の国際的規模の情報管理組織である MEDLARS, CAS, BIOSIS などの動きに対する関心もさることながら、われわれの大学図書館も情報の蓄積と流通を営む機関である以上情報の収集—処理—蓄積—検索—提供に至る一連のプロセスをシステム機械化し、一方においては業務の標準化・合理化を図り、一方においてはユーザーに対する情報提供のサービスを重点的に行なうことが近代化の方向であろう。現在文部省はプロジェクト別に東大医学図書館など数校に依嘱して、機械化導入の実験を試みているが、極めて近い将来九大などにも地区センター館としての役割を果たすために導入されることになるだろう。そうなれば地区センター館(旧七帝大と若干の大規模大学)の間には恒常的なコミュニケーション・ネットワークを組むことになるはずである。そうした事態を前にして、われわれは現状のマニュアル処理をシステムティックにして行く必要がある。LCの印刷カード、国会図書館印刷カードの利用による整理業務の合理化、省力化、標準化についても各大学図書館において、もっと真剣にとりくむ必要がある。紙数にも限りがあるので、私なりに興味をひかれた「東大医学図書館におけるコンピューターによる受入業務処理の実際」という講義についてとりあげ、その要旨を説明することにする。

システム機械化の問題点としては①小規模図書館では導入しない方が良くそのメドとしては蔵書5万冊以上、現行受入雑誌種類数1,000種以上、技術報告書タイトル数0-1,000、職員10～20名以上の規模が考えられる②高額な経費を伴うコンピューター導入については当然省力合理化の要請が前

提となるが図書館業務の中には永久に人に頼らねばならない部分があることに注目すべきであり、導入即人員増の抑制にはならない。導入直後はむしろその逆であった。③導入については相応の規模と財政的な裏づけが必要である。④人材の確保が先決であり、養成については正規の課程で1年のはかかる。東大では購入半年前より5名の館員を選び業者の開設する養成計画に参加させたが養成だけは早いにこしたことはないといったことがあげられた。また、適用範囲と目的とは雑誌の予約発注から所蔵目録編纂までのプロセスを機械化している。すなわち1)予約・見積・発注に関する処理業務 2)受入記録 3)支払処理業務 4)製本処理業務 5)登録に関する処理業務 6)年度雑誌受入リストの作成業務 7)所蔵目録作成 8)受入統計処理業務などである。以上は貸出を除いて機械化可能な、ほとんどすべての雑誌業務を含むトータル・システムである。そして次に志向しているものは、より進んだ形の機械化、すなわち市販二次資料磁気テープの利用、SDI(特定主題書誌情報提供)、IR(情報検索)である。東大のシステムの概要は1.TÖSBAC—3400を使用、カレント雑誌約2,700種を対象とし、パンチカードにより入力する。2.業務分担(システム設計、データ調査及びパンチ、プログラミング、オペレーションなど)は機械化担当職員5名と若干のアルバイト、そのほか東芝派遣プログラマーがいる。3.アウトプットリストは雑誌受入リスト、主題別リスト、刊行国別リスト、二次資料リスト、毎日到着リスト、毎週到着リスト、見積・予約準備リスト、見積合わせリスト、予約発注リスト、製本情報リストである。そして今年の11月頃機械化についてのマニュアルを発行する予定とのことであるが、われわれとしても導入にそなえて、いろいろな事例を参照しながら④入力データ⑥出力データ⑦コードについてあらかじめ検討しておくべきであろう。しかし、プログラムなどはすでに外注できるようになりつつあるし、将来はソフトウェア付でコンピューター導入予算が考えられるべきであるが、それには全国的な標準化という思い切った施策が必要であるというのが講義の結びであった。

(ひらかわ・ともみ: 本学農学部図書掛長)

**調査報告**

**夏休みの長期館外貸出結果報告**

(中央図書館)

中央図書館では7月2日から9月14日まで、夏休みの長期館外貸出を行なったが、その結果は下記のとおりである。

学部 利用別 図書別	文			教 育			法			経 済			理			工			農		
	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書
一般書	164	248	8	18	36	0	171	259	11	57	100	1	51	68	11	121	221	7	19	31	1
指定図書	3	2	1	0	0	0	4	6	0	0	0	0	10	10	4	9	7	5	5	6	2
合計	167	250	9	18	36	0	175	265	11	57	100	1	61	78	15	130	228	12	24	37	3

学部 利用別 図書別	医			歯			薬			教 養			医療技術短期大学			合 計		
	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書	人数	和書	洋書
一般書	3	3	0	0	0	0	0	0	0	27	45	1	2	3	0	633	1,014	40
指定図書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	31	12
合計	3	3	0	0	0	0	0	0	0	27	45	1	2	3	0	664	1,045	52

⑧ 指定図書の貸出は、8月7日までの分である。その後、指定図書の貸出しは実施していない。ただし、昭和37年度から昭和40年度までの指定図書は、その指定を解除して開架一般図書として配列し、貸出にも応じている。

中央図書館の情報資料掛(電・5310)では、利用者の方々から寄せられてくるいろんな質問事項の調査を行なっていますが、ごく最近にあった質問のなかから幾つかを、ご参考のためにここへ挙げてみることにします。

**質問1** 昭和44~45年に、京都大学でローマ私法史に関する学位論文が出されたと聞くと、その事実と論文の概要を知りたい。

**回答例.** 京都大学博士学位論文、第12集(040キ42)により、昭和44年9月24日柴田光蔵氏が「ローマ裁判制度研究」によって、法学博士号を授与されたことが判明。なお、法律関係雑誌記事索引・昭和43・44年(010ホ33)で、柴田光蔵著の関連論文が京都大学法学部刊行の法学論叢(052ホ6)に掲載されていることがわかる。法学論叢・82巻5,6号「ローマ元首政時代における属州刑事裁判について」同・85巻2号「ローマ法における占有訴訟の一考察」

**質問2** 外島忍氏の学位論文「不循環水の直接電解に関する研究」を入手したい。

**回答例.** 電気学会名簿(650テ10)で、外島忍は昭和18年・東京工業大学を卒業、現在は東北大学工学部応用化学科教授であることがわかったので、直接本人へその論文の抜刷りかコピーを交渉してみたらどうかと回答した。

**質問3** 有機化学関係の論文の参考文献に出ていた M. Nakagawa, C.E.E.R. Mar. P. 12 (1970) を入手したいので、C.E.E.R という誌名のフルタイトルおよび入手方法を知りたい。

**回答例.** 科学技術文献略語辞典やその他の雑誌目録からも出てこない。Ulrich's international periodical directory (010 U 26) の Chemistry の部門にリストされている Chemical economy and engineering review. (monthly) がこれに該当するのではないかと考えられる。これによると、前誌名は Japan chemical quarterly. 日本科学技術関係逐次刊行物目録・1967(010=89)を調査した結果、国立国会図書館が所蔵している。だが事実確認が不十分なので、上記目録に記入されている雑誌の発行所化学経済研究所に照会してみるように助言した。

**質問4** 景徹玄蘇和尚の詩文集「仙巢稿」の全国の所蔵館。

**回答例.** 国書総目録(010コ123)で調査し回答。なお「仙巢稿」は3巻3冊から成り、「僊巢稿」とも言う。

**質問5** 昭和3年から17年にかけて、九大農学部勤務していた金平亮三氏が、昭和12年に学士院賞を受賞したそうだが、対象となった研究題目は何か。

**回答例.** 毎日年鑑・昭和24年版(333マ2)で調査。昭和12年、金平亮三(林学博士)氏は「南洋委任統治領フロラの研究」によって、伯爵鹿島萩磨記念賞を受賞している。なお、毎日年鑑の昭和24年以前の版と、朝日年鑑(333ア1)の昭和17年以前の版には、学士院賞の第1回(明治44年)からの受賞者名と研究題目が一覧できる。

**質問6** 邪馬台国に関する学説の中に、国東半島説があると聞いたが、その提唱者と内容を詳しく知りたい。

**回答例.** 歴史読本・昭和44年6月特別号掲載の、十三の邪馬台国(情報資料ファイリングコーナー)の中に、井上薫著「邪馬台国研究の問題点」というのがあって、邪馬台国畿内説と九州説の代表的な学説とその特色等が出ている。その中の一つに、富来隆の大分県宇佐説も挙げられている。なお、雑誌「日本歴史」(057=2)の各号の巻末にある日本歴史関係の雑誌論文目録や、雑誌記事索引 人文・社会編(010サ21)等をチェックしてみるよう回答した。

**質問7** 「市銀連」は、なんの略か。なおその住所を知りたい。

**回答例.** 朝日年鑑・別冊百科便覧(333ア1)で調査。「市中銀行従業員組合連合」の略称。

**質問8** タイ国のピチャブリ市の人口、およびバンコクからの距離。

**回答例.** 新世界地図(671シ3)巻末地名索引と、世界地理風俗大系(662セ28)および Webster's geographical dictionary(750 W 5)で調査。バンコクから南西150 km。人口155,466人。ただし、人口は1963年現在のもの。

**質問9** William Baumol (Princeton Univ.) のインフレーションに関する論文が、1965年以後に出ていると思うが、論文名と所蔵先を知りたい。

**回答例.** Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur, mit Einschluss von Sammelwerken (I.B.Z) (010 I 22) 1967年で調査。学術雑誌総合目録・人文科学欧文編(010カ60)で、国内所蔵先は関西学院大学であることがわかった。

**質問10** 旧9帝大の創立年。

**回答例.** 全国大学一覧(199セ9)で調査。なお、京城大学のみは、アジア歴史事典(635ア13)で調査。全国大学一覧には、各大学の創立年月日が掲載されている。



## 海外情報

## Chemical Abstracts の電算機化 — 1972年の段階 —

ACS NEWS. 1971年6月5日号に報ぜられているところによると、米国化学会 (ACS) の CAS 部門は1972年1月から Chemical Abstracts (CA) の80の主題セクションのうち17のセクションの抄録を完全に電算機によって処理し、印刷することになった。これと同時に従来の CBAC, POST-J, POST-P の3種の2次刊行物の刊行を中止する。

従来の CBAC がカバーする領域は新しい CA の生化学の5つのセクションに、POST-J と POST-P は12のマクロ分子セクションのうち5つのセクションに吸収される。CBAC と POST ということは、前者が生化学のこの5セクションを検索するための検索語として、後者がマクロ分子セクションを検索する語として同義的に使用される場合に限り今後も残る。この電算機化によって、CBAC と POST の検索におけるカバー領域は従来より大いに拡張される。

1972年段階における CAS の電算機システムによる処理量は抄録数にして約65,000で、これは CA に発表される全抄録数の約20%にあたる。CAS は近年中には残りのすべてのセクションも電算機システムで処理することを計画しており、現在すでに可能になっている著者名、タイトル名、キーワードの磁気テープ化に加えて、件名索引、化学式索引のテープ化も計画している。さらに将来は、現在別個にも行われている抄録作業と索引作業を一本化して電算機処理することを企画しているが、これによって処理時間を短縮すれば、現在抄録より11カ月遅れて刊行されている件名索引も含めて、すべての索引群がわずか3カ月遅れて作成できるようになるということである。

(情報資料掛)

## 学内マイク

## 図書系職員の語学研修会

— ロシア語初級 —

図書系職員の語学力の向上を図り、先に行ないましたドイツ語・フランス語に引き続いて、今年度はロシア語(初級)の研修会を行ないます。受講者は42名。期間は、昭和46年9月14日より12月10日まで。毎週火曜日および金曜日の17時20分から19時20分まで。会場は文科系204番講義室。講師は、寺沢昌子氏。寺沢氏は、上智大学外国語学部ロシア語学科を卒業後、三井物産本店のソ連東欧室総務課に勤務されていたが、現在は家事の都合により退社されている。この語学研修会は、今後も引き続いて行なう予定です。

## 本学教官著作寄贈図書

- 水波 朗 (法学部・法理学)  
法の観念(水波 朗著)昭46 成文堂 ¥ 2,500
- 前川 俊一 (文学部・英語学, 英文学第1)  
緑蔭抄(前川 俊一 編訳)昭46 英宝社 ¥ 1,500
- 高木 暢哉 (経済学部・経済学史, 図書館長)  
現代不換通貨の価値(高木 暢哉著)昭46 未来社 ¥ 1,200

## 〇〇編集後記〇〇

ユツカ蘭は二度目の、可愛い釣鐘を並べたような白い花を咲かせ、ひととき花を終わったかと思われた夾竹桃は、また勢を盛り返して薄紅の花を沢山つけている。今年の秋は例年になく永いようである。

ふつう、街の中などでは、家を取り壊してみると、意外にその敷地の狭いのに驚かされることのあるのだが、農学部旧二号館を取り壊して平にされた新図書館の敷地は、逆にその広いのにびっくりさせられる。工事は、前号でお知らせした設計図面のうち、一部防煙区割による隔壁が取り去ってもよいこととなり、より利用しやすくなった姿で、明年1月発注、着工、12月竣工の運びに決った。

近ごろ急に学内で行き交う学生の数が多くなったと思ったら、学部移行の学生達であった。学部にとつてのフレッシュマン、それはまた図書館にとつても、新しい利用者、若々しい力の入来である。われわれもまたフレッシュな気持ちで前進したいものである。

(Y)

九州大学附属図書館月報「図書館情報」Vol.7, No.10 (通巻71号)

1971年10月15日発行・発行人 中村 譲

発行所 九州大学附属図書館・福岡市大字箱崎 3576・〒812・電話代表 ④1101 内線 5301